



【楽天市場】あんぽ柿 錦匠柿トレー Bパック(1パック230g)、福島県伊達より【お歳暮】JA伊達みらい【送料無料】10P08Feb15:伊達の蜜柑webshop
<http://item.rakuten.co.jp/datemirai/844630/>
 アクセス日:2015年4月6日



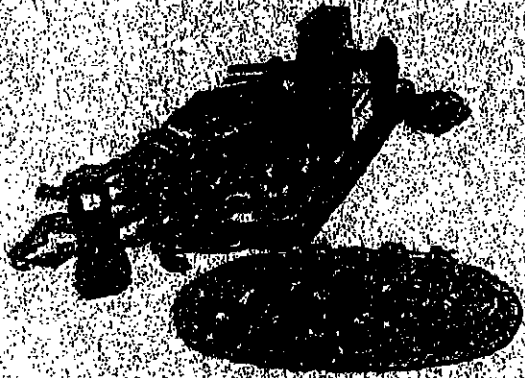
新潟県！国内産食材の販売サイト！コメリ産直市場！うまいもんみ〜つけ あんぽ柿
<http://www.sanicyoku.jp/toppage/koukoku/umaimon/014.html>
 アクセス日:2015年4月6日

福島あんぽ柿

市田柿の

ふるまい

【国産のふりかき柿の産地をめぐって】





昭和19年の献上時には、国民学校長、青年学校長と代表3名が上京。激しい空襲にあったという(高森町歴史民俗資料館所蔵)



昭和18年の市田柿献上が紹介された東京新聞の記事(高森町歴史民俗資料館所蔵)



昭和18年に山階宮家へ奉獻した際、門前にて。左側3人の女性が女子青年会代表、右側2人めが引率の市田村長、関川一実

皇室へ 市田柿を献上

昭和十八年(一九四三)一月、市田村長関川一実と女子青年会の代表三名が上京し、靖国神社、明治神宮、山階宮家などへ市田柿を献上しました。これは「戦後の女性の真心を護国の英霊に示したい」という気持ちの表れとして各新聞に取り上げられ、市田柿の名前を全国に広める一助となりました。記事には、献上された市田柿について「女子青年団員二百五十余名が各自の家々にある柿の木の中の最も秀でた木から数個づつを選びそれを国民学校に持ち寄って二カ月余りの間丹精をこめて」と書かれています。献上は、昭和十九年(一九四四)、二十年(一九四五)にもそれぞれ行われました。

昭和二十年の市田柿の献上が縁となって、市田村から久邇宮家へ侍女を参殿させるようお願いが届いたこともありました。市田村で協議した結果、大島山の後沢清子(ござきよこ)を推薦することになり、彼女は、終戦で局制度が廃止になるまで、久邇宮家に参殿し子どもの教育係として働きました。

空襲と市田柿 ⑥

なぜ、山階宮家へ市田柿を献上したの？

昭和十八年(一九四三)の市田柿献上で、明治神宮、靖国神社とともに奉獻先として山階宮家が選ばれました。

これは、海軍航空隊に所属し、「空の宮様」と呼ばれた山階宮武彦王が、農民思いの宮様であるというエピソードに感銘した女子青年会員たちの発案だったといえます。昭和十七年(一九四二)三月に市田国民学校で開かれた時局講演会で、講師に招かれた民間航空者で大日本報国義会長の竹崎武泰が話したもので、「農民思いの宮様は畑仕事から帰る農民を車に乗せて自宅まで送った」という内容もあったそうです。

山階宮家だけでなく、他の年には、山本英輔海軍大将の亡母の墓前や久邇宮家、一條公爵家にも市田柿が献上されています。



「空の宮様」と呼ばれた山階宮武彦王

年表 —市田柿に関する主なことから—

1943	戦争中、女子青年会代表が贈国神社明治神宮、山階宮家へ市田柿を
1929	世界大恐慌。養蚕業が衰退し、果樹栽培への転換が進む
1926	長野県立農事試験場伊那分場開設
1924	長野県柿品種調査委員会開催。市田柿の3人が出品した柿が優良品種に選ばれる
1923	官沢熊太郎が飯田市三種地区へ市田柿を植える
1921	焼柿から市田柿へ改称を申請 上沼正雄、橋本正農夫、酒井安らが下市田地区社年団とともに、市田柿を東京、名古屋、大阪の各市場へ初出荷
1907年頃	上沼正雄が寺山の斜面を開墾し焼柿の苗木を植える
1895	伊那郡立農事試験場開設(1903年廃止)
1857	伊勢屋敷で寺子屋を開き、焼柿を村内に広めた児島礼順死去
文化年間	下市田で伊勢屋敷がさかんになり伊勢社が現れる
1838	立石寺に「立石柿出荷天竜川通船船馬」が奉納される
元文年間	立石柿が「將軍の歯堅め」の儀式に用いられ、年末の風物詩として江戸で人気に
1656	飯田城主脇坂安元が柿改を行う
1614	大坂冬の陣の際に知久親直が各武将へ串柿を贈る
	松岡氏が、現在の高森町市田に松岡城築城
	飯田・下伊那地域で焼柿が栽培され、串柿の加工が行われる
	中国から焼柿が伝来
1948	県立農事試験場下伊那分場で市田柿の確実繁殖の調査試験が始まる(1961年まで)
1955年頃	飯田市三種地区で立石柿に代わり市田柿の栽培加工がさかになる
1960年頃	確実繁殖法が普及
1967	セロハン袋を使った出荷形態に統一される
1966	飯田・下伊那地域で生産される干柿のブランド名を「市田柿」に統一
1968	北原利雄がモーター駆動の柿むき機を開発
1969	松川町、豊丘村、農事試験場下伊那分場の市田柿6樹が優良母樹に指定される
1973	出荷形態がセロハン袋150gから200gへ増量される
1975	県立農事試験場下伊那分場移転
1980年頃	樹園地栽培が定着し、品質向上へ生産量増加につながる
1982	11月上旬の長雨により青カビが大量に発生
1985年頃	火力乾燥法や消毒法の改良、大型の柿ハウス導入などがすすみ、飯田下伊那地域が日本有数の干柿産地に成長
1994	市田柿専用の全自動柿むき機「ムッキー」が開発され、広く普及
1999	高森町で「柿を使った料理コンテスト」開催
2001	すべての加工食品に品質保持期限表示が義務付けられ、シーラー機を使った密封包装へ移行
2004	市田柿の衛生管理マニュアルを策定、導入
2006	特許庁の地域ブランドに「市田柿」が認定される
2007	高森町に「市田柿の由来研究委員会」発足
2008	市田柿ブランド推進協議会設立 高森町歴史民俗資料館で特別展「市田柿発祥の里」と時の駅講座「市田柿を生んだ処」とその時代」開催 8月に下伊那郡北部を中心に降雹。落果などの被害が出る

参考文献(五十音順)・

市田柿 武田彦左衛門著／柿の文化誌—柿物語— 岡田勉著 南信州新聞社出版局発行／郷土の特産
市田柿 現状と発展を求めて 関東農政局長野統計情報事務所飯田出張所編 長野農林統計協会発行／
くだもの品種名鑑 長野県うまいくだもの推進本部編・発行／原色日本の美術 第4巻 正倉院 土井弘著 小
学館発行／下伊那史／下伊那の特殊産業 信濃教育会下伊那部会編 山村書院発行／下伊那分場史—
天竜川の流れを友に50年 長野県農業総合試験場・南信地方試験場編 南信地方試験場拡充強化期成
同盟会、南信地方試験場同窓会発行／信州伊奈郡郷村鑑 本堂順一編纂 山村書院発行／高森町史上
巻・下巻／高森町果樹のあゆみ六十年 「高森町果樹のあゆみ六十年」刊行委員会編・発行／高森南小
学校沿革史／地域文化No.58 2001秋 (財)八十二文化財団発行／長野県果樹発達史／長野県史／長
野県農業総合試験場 南信地方試験場報告 第1号「市田柿の優良系統の選抜並びに干柿の品質向上に
関する研究」／長野県の園芸 日本園芸会長野県支会編・発行／日本食品干蔵科学会誌 第34巻第4号
「カキタンニン(Ⅳ)カキタンニンの健康機能性を活かした柿の新商品開発」平井俊次／萩山のさと 下市田
史談会編／平成20年度柿研修会「柿の栄養・健康機能」平井俊次／本朝食鑑 第2巻 島田勇雄訳 平凡
社発行／三穂村史／みるよまなぶ飯田・下伊那の歴史 飯田市歴史研究所編 飯田市発行

協力者一覧(五十音順、敬称略)・

飯田市美術博物館、飯田市歴史研究所、石原忠正、市田農産、市瀬辰春、伊奈川義公、春日敏、割烹葵、
上沼君平、上沼長彦、唐沢哲男、北原利雄、木村祐三、宮内庁正倉院事務所、倉沢秀司、光澤喜人、後沢
清子、後沢ちはみ、小林誠二、小林製袋産業株式会社、酒井紀男、佐々木春子、佐々木弘子、JAみなみ信
州、塩澤正人、喬木村歴史民俗資料館、高森町歴史民俗資料館、竹内昭一、塚平耕一郎、塚平増男、天
竜産業株式会社、豊橋市二川宿本陣資料館、中塚博明、中塚泰臣、長野県下伊那地方事務所農政課、
長野県下伊那農業改良普及センター、長野県南信農業試験場、中村まさ子、庭村一男、橋都正、羽生清彦、
羽生宏教、林登美人、平井俊次、福沢利幸、福島光三郎、船橋徹郎、北条達美、前澤健、松田正好、三石
俊彦、宮坂武男、宮沢勉、宮沢政司、宮沢充利、村松好文、本島洋二、山内尚己、山岸喜次郎、山岸宗利、
山岸行雄、吉川森子、吉沢栄、立石寺

市田柿の由来研究委員会・

平成18年、市田柿が地域ブランドに登録されたことをうけ、郷土史家、柿生産者、町職員らをメンバーとし
て発足。「市田柿発祥の里」として、学術的・郷土史的見地からの市田柿の価値や存在感を高めていくこ
とを目的に活動。

会長:北沢富夫 副会長:今川博司、原次郎

委員:加藤忠彦、小島福夫、佐々木昌、佐々木順一、手塚勝昭、橋都栄一、羽生義雄、松島高根、山田幹男

特別委員:JAみなみ信州高森支所、高森町商工会

事務局:高森町役場総務課町づくり振興係 清水栄

制作:株式会社エージェンシー広宣 取材・編集:高橋聡子 イラスト:今村由男 印刷・製本:ユニオン印刷株式会社

本書の一部または全部の無断複写・転載等は禁じられています。 ©ichidagaki no yurai kenkyu iinkai 2009 print 発行所

賞 状

市田柿商標管理委員会 殿
市田柿ブランド推進協議会



SHINSHU
BRAND
AWARD

信州ブランドアワード2013

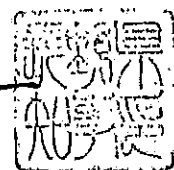
長野県知事賞

あなたのブランド「市田柿」は 信州ブランドアワード
2013において 信州発の優れたブランドとして頭書の
通り選考されましたのでこれを賞します

2013年11月15日

長野県知事

阿部 守一



市田柿出荷規格

- ・品質規格については、「必須基準」をクリアし、かつ「相対基準」をクリアしたものに限
り、市田柿として出荷するものとする。
- ・「必須基準」は、全ての項目を満たさなければならない。
- ・「相対基準」は、5項目のうち3項目を満たさなければならない。
- ・必須基準および相対基準を満たしていても、「出荷不可例」に該当する場合は、市田柿と
して出荷できない。

出荷規格		出荷不可例
必須基準	【乾燥状態】 乾燥状態が良く、モドリの無いもの。	モドリのあるもの。
	【色上がり】 地色が全体に赤橙色の飴色に仕上がって いるもの。	飴色でないもの。
	【粉化粧】 全体に地肌が見えないように、肌理細か な白い粉がきいているもの。	粉がきいていないもの。 粉が極端に変色しているもの。
	【カビ・渋味・異臭】 カビ・渋味・異臭の無いもの。	カビ・渋味・異臭のあるもの。
相対基準	【黄変・黒点】 黄変は、へた部分にわずかなもの。 黒変は、ないもの。	黄変は、ほぼ果面全体にあるもの。 黒変は、濃いもので果面の大部分にある もの。
	【粉の量】 粉が薄すぎず厚すぎず、均一で、大きな シワの中にも粉がきいているもの。	
	【皮付き】 変色している皮・目立つ皮の無いもの。	皮が黒く変色しているもの。 大きな皮が目立つもの。
	【黒点】 エンピツ芯大で1果に1ヶ以内。	エンピツ芯大で1果に6ヶ以上。
	【シワ・キズ】 大きなシワ・キズの無いもの。	大きなシワ・キズが目立つもの。

●階級規格

階級	重さ（1果重）
3L	43g以上
2L	28g以上43g未満
L	19g以上28g未満
M	14g以上19g未満
S	14g未満



長野県の秋の特徴

[長野地方気象台 TOPへ]

●台風と風

台風は大きな空気の渦巻きで、強い風が北半球では反時計回りに吹いています。

風による災害には、瞬間的な風(突風)の強さが被害をもたらします。

斜めから風が吹き当たる場合は、建物の風上にあたる屋根周辺部から円すい状の渦により局部的に押し上げられて、破壊のきっかけとなります。また、風上側の窓が破れると、室内の風による圧力が急激に大きくなって、家屋破壊のきっかけともなります。

強い風による飛散物は空中でさまざまな運動をします。瓦のような平らな板状ですと、回転しながら吹いている風の力の向きと、瓦が下に落ちる力(重力)とが釣り合うような、斜めの方向に落下し、かなり広い範囲に飛びます。

県内の観測開始以来の日最大瞬間風速の第一位は、表1のとおりです。

観測所名	長野	松本	飯田	軽井沢	諏訪
風速	31.4m/s	37.6m/s	37.0m/s	30.3m/s	33.8m/s
風向	北西	南	南	西	南東
年月日	1948/8/23	1998/9/22	1959/9/26	2003/3/2	1959/9/26
発生原因	寒冷前線通過	台風第7号	伊勢湾台風	発達した低気圧	伊勢湾台風
統計開始年	1937年～	1939年～	1940年～	1964年～	1953年～

表1 日最大瞬間風速の第一位

●台風と雨

台風は、たくさんの水蒸気(気体となっている水)を含んでいるため、広い範囲に雨を降らせ、雨の降る時間が長くなり、雨量が非常に多くなります。また、台風の通過するコースにより、大雨の降る地域が地形の影響を受けて変わります。

日本付近に前線が停滞しているところに、台風が接近すると台風からの湿った空気が前線に流れ込み前線の活動が活発化します。そして、その前線付近では、局地的に激しい雨が降ります。

県内の観測開始以来の日降水量の第一位は、表2のとおりです。

観測所名	長野	松本	飯田	軽井沢	諏訪
雨量	124.5mm	155.9mm	325.3mm	318.8mm	161.5mm
年月日	2004/10/20	1911/8/4	1961/6/27	1949/8/31	1983/9/28
発生原因	台風第23号	台風	梅雨前線と台風第6号	キティ台風	台風第10号
統計開始年	1889年～	1898年～	1898年～	1925年～	1945年～

表2 日降水量の第一位

●台風と災害

長野県の台風災害の最も多い月は、8月～9月に集中しています。また、県の西側を北上して通過するコースでの被害が、最も多くなっています。その中でも四国付近に上陸して、若狭湾から富山湾付近に進むコースで被害が大きく、次いで長野県に近い東海地方に上陸したコースとなっています。

●長野県に災害を及ぼす台風コース

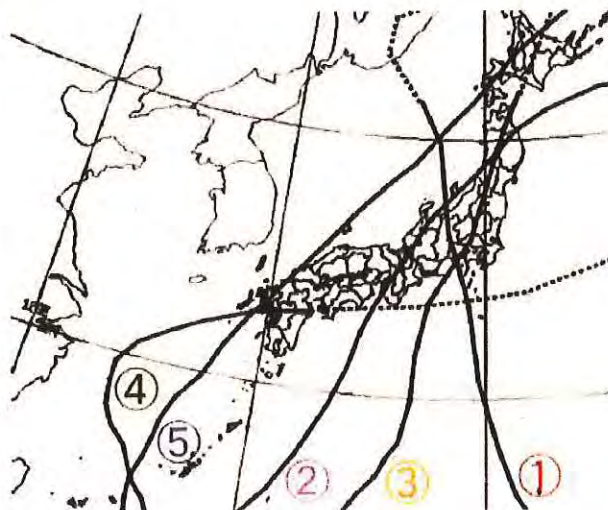


図1 長野県に災害を及ぼす台風コース

- ① 中央部縦断コース ② 西側北上コース ③ 東側北上コース ④ 南側東進コース ⑤ 対馬海峡から日本海中部を北東進コース

①中央部縦断コース

県内を南北に縦断する最悪のコースで、全県的に大雨と強風の被害が発生します。特に千曲川水系では厳重な警戒が必要となります。

1959(昭和34)年8月12～14日の台風第7号は、県の東部・北部を縦断したため風、雨ともに非常に強く、死傷者453人、住宅への被害が2万戸に達する空前の被害となり、44市町村に災害救助法が適用されました。

②西側北上コース

長野県に接近して西側を北上するコースで、全県が暴風・大雨域に入り、風水害が発生します。特に木曾川、天竜川水系では厳重な警戒が必要となります。

1959(昭和34)年9月25～27日の伊勢湾台風では、強風による住家の全半壊が約10,400戸に達し、全体の70%が南部に集中しました。死傷者は約272人で、農作物被害は、りんご・ブドウ・梨など全県に及びました。

1998(平成10)年9月21～22日の台風第7号は、和歌山県に上陸し強い勢力を保ったまま西側を北上したため、全域で南よりの強い風が吹き、松本の最大瞬間風速は、37.6m/sと、伊勢湾台風の時の最大瞬間風速:35.3m/sを上回りました。このため、県内の農作物・生産施設等の被害金額は123億円と農業関係の被害額として、過去最悪となりました。

③東側北上コース

県の東側を北上するコースで、台風の吹き返しによる強風の被害が大きくなります。特に台風に近い佐久地方の山沿いでは雨、風が強まります。また、東部や北部では大雨に対する厳重な警戒が必要となります。

1958(昭和33)年9月17～18日の台風第21号では、県の北東部と東部周辺で総雨量が140～200mm以上となり、千曲川水系の中小河川がはんらん・決壊して、死傷者約150名の大きな災害となりました。

1982(昭和57)年9月10～13日の台風第18号では、佐久から北部で総雨量が140～200mm以上、南部では200～300mmとなり、千曲川水系の中小河川がはんらんし、飯山市の樽川が決壊しました。死者2名、負傷者33名、被害総額は約554億円となっています。

④南側東進コース

太平洋側を東に進むコースで、典型的な雨台風です。伊那谷や木曾谷、佐久地方などを中心に一様な大雨となります。

1983(昭和58)年9月28～29日の台風第10号により中部・南部では、総雨量が200mmを超え、各地で土砂崩れが発生しました。また、諏訪湖が増水し約1,083haが浸水しました(床上・床下浸水家屋は約6,600戸)。

また、飯山市常盤地区では千曲川が決壊しました。

⑤対馬海峡から日本海中部を北東進コース

全般に雨量は少ないが、北部の山沿いで強風となり、北アルプス一帯では強い風、雨となるので注意が必要となります。

1991(平成3)年9月27～28日の台風第19号では、全県で強風となり特に北部の千曲川沿いで、最大瞬間風速が30～40m/sに達しました。この強風により果樹中心の農作物に被害が発生しました。

●紅葉

台風が足早に関東の東海上に抜けて、冷たい空気が入って気温が急に下がると、標高の高い所では、初霜や初氷が観測され紅葉の便りも届き始め、この紅葉する日の等しいところを結んだ線は「紅葉前線」と呼ばれています。

紅葉は、最低気温が8℃前後より低くなった日があつてからしばらくして始まります。長野県内の各地の最低気温の平年値からこの条件に当てはまる時期は、標高1,200m前後では10月中旬頃です。紅葉が山を降りる早さは、標高100mにつき2～3日といわれています。

美しい紅葉の条件は、「昼と夜の寒暖の差が大きいこと。太陽の紫外線にたくさんあたること。葉が乾燥し、枯れてしまわないこと。」といわれます。

このような条件は、移動性の高気圧に覆われて、昼間に暖かく、夜に冷えるような日が続く年ということになります。

●霧の季節－秋の霧－

気象台や測候所の平年の月別の霧日数は、軽井沢を除いて秋に多くなっています(図2)。

これは内陸の盆地で多く発生する「放射霧」によるものですが、千曲川、犀川、天竜川の大河川やそれに流れ込む中小河川からの「蒸発霧(川霧)」も加わって、長野・松本・伊那盆地などでは濃い霧が発生しやすくなります。

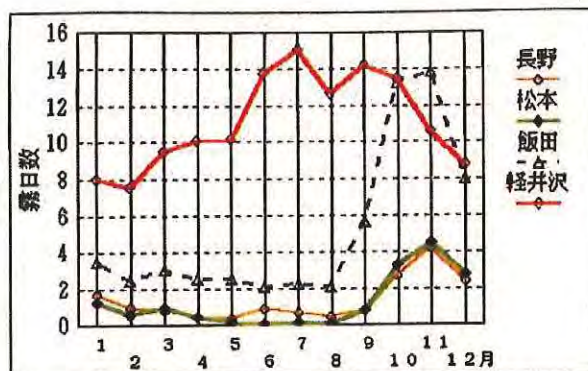


図2 気象官署の平年の月別霧日数(統計期間:1971～2000年)

霧の発生条件

霧が発生するには、その付近の空気中の水蒸気(気体となっている水)が水蒸気としていられない程に湿った状態になることが必要です。それには気温が下がるか(冷却)、結露し始める温度(露点温度)が上がるか、またはこの二つが同時に起きることです。

空気中に含まれる水蒸気の量は、気温の低下とともに減少します。そのため、空気が水蒸気を含みきれぬ温度以下まで下がると空気は完全に湿って「飽和状態(湿度が100%)」となり、余分な水蒸気は小さな水滴となります。また、露点温度が上がるということは、湿った空気が供給されることで、空気は飽和状態になります。この小さな水滴が光を散らばらし(散乱)たり、反射や吸収して見通せる距離が1km未満になった場合が「霧」です。

霧の分類

1. 空気の冷却

気温が下がることによって発生する霧には、「滑昇霧」「放射霧」「移流霧」があります。

「滑昇霧」は、湿った空気が斜面を上昇するときに空気が膨張して、気温は下り、その時に発生する霧です。軽井沢の春から夏にかけての霧がこれに当たります。

「放射霧」は、「盆地霧」ともいわれ県内の秋を代表する霧です。

移動性の高気圧に覆われ、晴れて風の弱い夜には、「放射冷却現象」といって地面は大気中に熱を放出するため気温が下がり、それに接している地表付近の空気の温度も下がって飽和状態となります。すると余分な水蒸気は細かな水滴に変わり、遠くの景色を急速に見えなくしていき霧となります。

秋は、移動性の高気圧に覆われる日が多くなるため、霧の発生する季節となるわけです。

しかし、この霧は、日の出とともに空気が暖められると消えていきます。

「移流霧」は、暖かく湿った空気が、それより冷たい水面や地面を移動する時に、下から冷やされて気温が下がって発生する霧です。

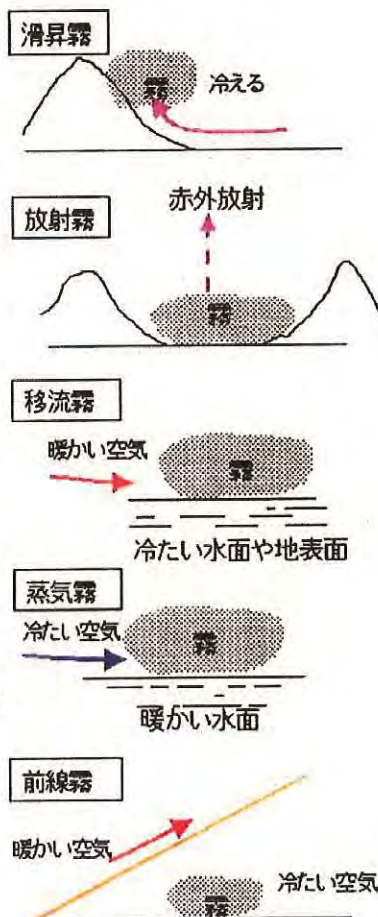
2. 水蒸気の供給

水蒸気の補給によって発生する霧には、「蒸発霧」「前線霧」があります。

「蒸発霧」は、川や湖、海や湿った地面が、冷たい空気に覆われた時やその空気が移動する時に、その空気よりも暖かい水面または地面から蒸発する水蒸気が冷えて発生する霧のため、「蒸気霧」ともいわれます。

「前線霧」は、温暖前線(暖かい空気が冷たい空気の上をはい上がっている前線)から降る暖かい雨が、下の乾いた冷たい空気層の中で蒸発して水蒸気になった後、再び冷やされて霧になる場合です。

また、暖かい空気と冷たい空気が混合しますので、気温の高い空気は、気温が下がり霧の発生することがあります。これを「混合霧」ともいいます。



時雨(しぐれ)

秋の終わりと冬のはじめのころ、長野県の北部の山沿い地方を中心に、断続して降る雨を「時雨」といっています。

冬型の気圧配置となって、日本海で発生した積雲や積乱雲が山にぶつかって山沿いで時雨となり、強い風の時には、山あいを吹き抜けて平地にも時雨をもたらします。

11月の野沢温泉の日降水量1mm以上の日別の出現率では、11月下旬から時雨の影響を受けているのが分かります(図3)。

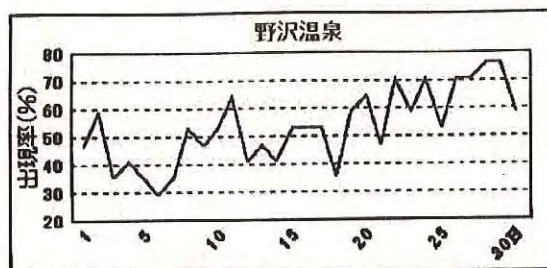


図3 11月の日降水量1mm以上の日別出現率の時系列図(統計期間:1976~1992年)

[長野県の気候](#)

[長野県の春の特徴](#)

[長野県の夏の特徴](#)

[長野県の冬の特徴](#)

[長野地方気象台のトップページへ戻る](#)



Copyright © 1999-2015 Nagano Local Meteorological Office
Japan Meteorological Agency All Rights Reserved